

# 会員、ビジター各位

## SAM大阪支部

〒530-0003 大阪市北区堂島2-4-27 新藤田ビル14F  
 学校法人 産業能率大学 総合研究所 内  
 TEL:06-6347-0321 FAX:06-6347-0328  
 担当:花村(事務局代表)・岩田(運営担当)

### SAM大阪 月例会のご案内

拝啓 ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、早速ですが月例会のご案内をさせていただきます。

何かとお忙しい時期とは存じますが、多数の方々のご出席をお待ちしております。

敬具

日 時	<b>平成27(2015)年5月20日(水)</b> 講話・質疑13:10—15:30 <u>講話開始は13:15です。ご注意ください。</u>
場 所	<b>中央電気倶楽部</b> 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2丁目1番25号 TEL 06-6345-6351
講 師	<b>SAM日本チャプター</b> <b>理事 三田村 和夫 (みたむらかずお) 氏</b>
演 題	<b>海外メディアが見る日本</b>
内 容	対日観は1960年代、英 The Economist誌初の日本特集(日本産業警戒論)の後「振興 経済国a neweconomic power(陰口はan economic animal)となり、1970年代には「日 本式経営=just-in-time、Kaizen等」に注目。Vogelの「Japan as number one」や Reischauerの「The Japanese」が出版され、「経済大国 = an economic super power」 となりました。 1980年代には「プラザ合意」で円高、日米技術協力協定による軍事技術規制もあり、 Emmottの「The sun also sets」後の1990年代にデフレ不況。同氏の「The sun also rises」は2006年。2010年代は「Tsunami,Fukushima」および「Omotenashi」と 「tatamiser」です。 この間に20世紀初めの第2次産業革命(大量生産)があり、20世紀末の第3次(ロボット と人工知能普及)、21世紀初めの第4次(3Dプリンタ普及)と続きます。1980年代以降 のグローバル化で輸出産業でない国内企業にも国際競争力が求められる時代になり ました。そこで、国際影響力の大きい英The Economist誌とFinancial Times紙の重 要な記事および最近の記事を和文で紹介しながら、ポイントを指摘します。
講 師 略 歴	1936年東京生まれ。 1959年慶應義塾大学経済学部卒業、三菱電機入社。 1990年海外協業室長代行。 1994年子会社役員。 2000年米国ビジネス・ワイヤ代表取締役、2004年退任。 SAMチャプター理事。
会 費	<b>正会員 1,500円 / ビジター 2,000円</b>
お 知 ら せ	6月定例会未定

出欠のご返事は **2015年5月19日(火)まで** にお願ひ致します。  
 当日は時間厳守にご協力を願ひ致します。